

# 平成25年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 看護学部

フリガナ ハットリ リツコ  
氏名 服部 律子

研究期間 平成25年度

研究課題名 青年期女子の親準備性とキャリアデザイン、ライフデザインの関連性

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	服部 律子	看護学部	教授
研究分担者	後藤 宗理	看護学部	教授
研究分担者			

### 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究の目的は、青年期女子の親になることへの心理面での準備状態である「親準備性」と、大学入学初年次に描いているキャリアデザイン、ライフデザインの実態を明らかにすることである。

研究者らの先行研究において、若者たちが就職活動をきっかけとしてライフデザインを模索し、その中で親になることについて考えていることが示唆されている(服部・後藤, 2009)。この点について検証し、青年期女子の「親準備性」とキャリアデザイン、ライフデザインの関連性を明らかにするための縦断研究の1年目として、本研究を実施した。

### 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

本研究への協力を得られた本学の1年生4学科510人を対象に質問紙調査を行い、479人から回答を得た(回収率93.2%)。対象の選定にあたっては、偏りを避けるため、入学時に職業志向性の高い学科とそうではない学科の学生を対象とした。

調査は無記名自己記入式の質問紙を用いて実施した。質問紙は、ライフデザインとキャリアデザインに関する自由記述式の質問項目と、年齢等の属性に関する質問項目、親準備性尺度(服部, 2008)、Rosenbergの自尊感情尺度日本語版(山本ら, 1982)、時間的展望体験尺度(白井, 1994;1997)で構成した。

回答の得られた479人のうち、年齢と各尺度に漏れなく回答されていた465人を有効回答とし(有効回答率97.1%)、統計学的に分析を行った。自由記述の項目については、記述内容からキャリアデザインやライフデザインのターニングポイント、就労の継続希望を読み取り分析した。

本研究は看護学部倫理審査委員会の承認(承認番号:109)を得て実施した。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

1年生の段階で将来希望する業種または職種が明らかになっている者が76.3%、未定が22.2%と、その具体性に差はあるものの、多くの学生は将来就きたい業種や職種(以下、「希望の仕事」とする)が決まっていた。

希望の仕事に就くために準備していることの有無については、77.2%の学生が「大学の授業をしっかりと学ぶ」や「希望の業種でアルバイトをして経験を積む」、検定など、希望の仕事に就くための準備として意図的に取り組んでいることがあると回答しており、学生たちは1年次から希望の仕事に向けて着実に準備を進めていることが明らかとなった。希望の仕事が決まっていない学生でも25.5%は検定を受けるなど、将来に向けて準備していることがあると回答していた。

希望の仕事が決まっている学生のうち55.5%は退職の時期についても考えていた。最も多かった時期が「第二子の出産時」(67.0%)、次いで「第一子出産時」(14.2%)と、希望する仕事に就いても約8割の学生は子どもの出産に伴って仕事を辞めることを考えていることが明らかとなった。

次に、希望の仕事が決まっている学生と決まっていない学生の親準備性、時間的展望体験、自尊感情について比較した。その結果、希望の仕事が決まっている学生のほうが時間的展望体験尺度の下位尺度「目標指向性」と「希望」が高く、親準備性尺度の下位尺度「子どもの養育」、「親になることの意義」、「親になる要件」が高くなっていた。その他の得点に有意差は認められなかった。

本研究の結果から、希望の仕事が決まっている学生ほど将来への目標指向性や希望が高いこと、子育てについても親になることの意義を感じ、子どもの養育を考えていると同時に、親になるため要件を満たすことを考えていることが明らかとなった。そして、このように将来について考える力を持ち、子育てについても前向きに考えていることが、子どもの出産を機に希望の仕事に辞めるという選択に繋がっているのではないかと考えられた。

これらのことから、女性のキャリアサポートにおいては、希望の仕事の決定やその実現に向けた支援だけでなく、子育てと両立しながら希望の仕事を継続できるよう、子育て期の社会資源の活用や人的支援環境の調整などについて学生のころから学ぶ機会を提供することも必要ではないかと考えられた。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

① 青年期女子	② 親準備性	③ キャリアデザイン	④ ライフデザイン
⑤	⑥	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表タイトル、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なものの数件を記載。)

本研究の成果は、本年8月に開催される思春期学会で発表すると共に、同学会発行の「思春期学」または本学看護学部紀要に投稿し公表する。